

「もしもガイド」発行

【玄関ドア】

先月配布の「もしもガイド」に添って、今回は地震がマンションに与える影響を解説します。

大地震が発生すると、建物は損傷し、最悪は倒壊となります。もし建物が無事であっても、家具や家財等の破損・転倒が発生。その影響による被害を受けます。

まずは、地震が発生した瞬間にはどのようなことが！

大きな揺れ、大きな音、埃っぽい臭い、すべてが普段と違う。



【停電が発生】

電気を必要とするものがすべて停止。エレベーター、水道、電話、インターネット、テレビ等電化製品、各種の充電、自販機等、普段あたりまえに使用できているものが使えなくなります。

【家具類の転倒・家財の移動(落下)】

出入口がふさがれ避難できなくなります。床に散乱や破損したもので歩くこともできません。暖房器具などの火気に覆い被さり出火の可能性もあります。つり下げ式照明器具が落下し負傷。冷蔵庫とガスコンロの間に挟まれて大火傷。家具類の転倒落下で、負傷または最悪は死亡することになります。

【共用廊下やバルコニー(ベランダ)の損傷】

接合部がひび割れ、最悪は落下します。

【非常階段の損傷】

接合部の損傷や破断、最悪は倒壊や落下します。



【エレベーター停止】

停電や損傷で停止、閉じ込めも発生。大阪北部地震では339台で平均80分の閉じ込めが発生。

【配管・排水管の破断】

上水道破損で断水し漏水が多発。ガス管破損でガス漏れ。排水管破損で汚水漏れが発生。これが非常に厄介なことになる。排水管破損を特定するには、漏れた汚水の臭いでの判断となる。上水道の漏水は止まれば住戸内に居住できますが、排水管漏水は居住し続けることも難しくなります。

【窓ガラス(サッシ)や建物外壁の損傷】

ベランダ側に避難したくてもサッシが動かない。ガラス破損や壁面損傷で共用廊下も使用困難になります。

【地盤沈下や液状化】

マンホールが地上に浮き上がり、敷地内道路も車両通行不可となる。各棟のエントランス前や、非常階段前にもひび割れや大きな段差が発生します。

昨年に全戸「玄関ドア対震化」改修で避難路確保できています。ただし、玄関にたどり着くまでの室内通路は普段から家の中の片付けをして、転倒や落下物が無いように心掛けることも命を守る大切な行動です。

◆地震が発生した後にはどのようなことが！

ライフライン停止で長期間不自由な生活を強いられることになります。



【救助・救出】

自分と自分の大切な人の安否が確認できたら、ご近所への声掛けと、ケガ人を発見した場合は、お互い様の気持ちで助け合いましょう。

【エレベーターの停止・使用不可】

電力が復旧するまで使えません。更には、エレベーター管理会社の安全点検が完了しないと使うことができません。使用できない期間は、階段での上り下りをすることになるので大変です。



【電気の停電】

大地震での停電後は安全確認のため、通電まで数日を要します。テレビや調理器具など電化製品は使用できず、夜間は照明のない生活になります。電話やインターネットも使用できず、スマホや携帯電話の充電もできません。当然、エアコンもダメで夏は本当に大変なことになります。水道はポンプが動かず断水します。

【都市ガスの供給停止】

地域全体の安全が確認できるまでガスの供給はストップされます。供給停止期間は35日程度が想定されています。この間はお風呂なども大変です。

【トイレの使用不可や使用不能】

各棟で排水管に損傷や破損があった場合、トイレは使用できません。損傷や破損に気づかず上層階でトイレを流すと損傷箇所で汚水が漏水します。排水管破損の恐れがある場合、管理組合から排水停止連絡をします。排水停止連絡を受けた場合は、排水許可があるまで排水不可となるのでご協力をお願いします！

【ゴミ出しのマナー・ルール】

震災ゴミ、汚物、生活ゴミなど、普段と違うルールやマナーが必要！



【お互いさまの心】

自分だけが被災したのではなく、**すべての人が被災者であることを忘れずに**、相手のことも思いやること。これが、災害発生時には最も重要なことなのです。

今回は『地震発生時の行動指針』です。